



テレビ朝日
演出・プロデューサー
加地 倫三さん



2009. March / Vol.71

© 2009 Interactive Program Guide Inc. all rights reserved

「視聴率」とのたたかい。

いま、テレビの制作現場はさまざまな試練を迎えている。百年に一度といわれる不況は、テレビ番組の制作費に大きな打撃を与えている。一方で、若者のテレビ離れが指摘される中、限られた予算の中で少しでも高い「視聴率」がとれる番組制作を要求される。長い間テレビ番組の人気、質の指標とされてきた「視聴率」。テレビの視聴スタイルが大きく変化して現在、その価値 자체をあらためて見直すべきではないかという議論もある。テレビ制作の現場にとって、視聴率とは、どんな意味を持つものなのか。『アメトーーク!』『ロンドンハーツ』等の人気番組の制作を手がける加地倫三さん(演出・プロデューサー)にお話をうかがってみた。

聞き手・横江史義

—テレビの制作者は、常に「視聴率」というプレッシャーとたたかっているわけですよね。それは、具体的にどのような重圧なのでしょうか？

無論、それは人それぞれで、作る番組の性質によってもだいぶ違いますが、私のようなお笑い番組を作っている場合は、自分たちがやりたいことができるかどうかが問われる一つの指標が「視聴率」だと考えています。よくあることですが、「あの回は、面白かったけど数字取れなかつたよね…」という評価を社内外からされるとき。気にするなと言ふても、ほとんどの人はそれが難しい。現場はすごく盛り上がって、自分たちのものもいよいよが出来たと思っていたものが、数字がとれない…。そうなると、その企画をもうやれない空気に現場が包まれていく。数字を取ることだけ狙うと、どこかで見たような似た番組になったり、どんどんつまらなくなってしまう。結果さらに数字が上ががらなくなっていく。そういう悪循環にはまってしまった番組をいっぱい見ました。

—制作現場がやりたいことがやれない空気になると、番組もつまらなくなるわけですね。

そうだと思って番組を作っています。たとえば『アメトーーク!』で私が一番大事にしていることは、「自分たちが楽しめる番組にする」ということです。そういう考え方って、一見単なるマスターべーションのように思えるかもしれないが、作っている側が面白い番組でないと、見る人も楽しくないはず。そういうのは、アウトプットに出ると思うのです。『アメトーーク!』って、出演者全員「そこまでリラックスしちゃっていいの？ 仕事でしょ？」っていうくらい皆リラックスしてるとあります。おそらく視聴者もそれが伝わって、リラックスしてゲラゲラ笑ってもらえる番組になっているのだと思います。それに、入って、リラックスしているときって「いいもの」が出たりするじゃないですか。お笑い番組系は、何かに追われたギスギスした空気の中やっていくと、守りに入ってどんどんつまらないものになっていく。

—『アメトーーク!』は、視聴率という数字のプレッシャーからは解放されているということですか？

そんなことはないですけどね（笑）。ただ、個人的にはあまり気にしないようにしています。先ほど申し上げたように、視聴率を気にしすぎると、かえってつまらないものになっていくだけで、結局いいことが全くないように思うのです。それに、23時台という時間帯での番組ということもあり、ゴールデンよりは数字の重圧がない環境でやらせていただいている番組です。



『アメトーーク!』
(テレビ朝日系列 毎週木曜よる11:15~)
DVD3巻 好評発売中！



—やはり、「視聴率」は魔物ですね。

確かに、10年前から比べると、視聴率のプレッシャーが強くなっている気がします。無論、テレビ番組はCMスポンサーありきのビジネスなわけですが、必ずしも「視聴率が高い番組=CMスポンサーにとって価値が高い番組」ではないと私は思うのですが、視聴率だけを追いかけてしまうと、本当にその番組を見てほしい人たちから見られない番組になってしまって、多々あると思うんです。CMスポンサーの方たちも、「誰でもいいから1人でも多くの人に見もらす」よりも、「見て欲しいターゲットに(1人でも多く)見て欲しい」のではないでしょうか。私たちは、直接スポンサーの宣伝部の方たちとお話しする機会はありませんが、個人的には、是非一度そこをきいてみたいですね。

—本日は、興味深いお話をありがとうございました。

今月のGワード groovy word

cloud computing

クラウドコンピューティング

インターネットやTCP/IPネットワークは、その性質上から、稀にクラウド（cloud=雲）と表現される。ここから、インターネット上の“どこか”にあるハードウェアリソース、ソフトウェアリソース、データリソースをユーザーがその所在や内部構造を意識することなく利用できる環境。または、その利用スタイルを「クラウドコンピューティング」と呼ぶ。適切な方法でクラウド（インターネット）に接続さえすれば、ユーザーは即座に各種のサービスが利用できるという点で、SaaS・ASPに近い性質がある。従来のコンピュータ・ネットワークに対して、クラウドコンピューティングにはつかみどころのない“雲”化した巨大ネットワーク（インターネット）にあらゆるシステムリソースが集約され、それ自体がコンピュータとなるという、パラダイムシフトの意味が込められている。

